

平成13年度 施策別取組方向

部局名：地域振興部、環境部

施策番号	施 策 名		
552	流域圏づくりの推進		
<p>【2010年度の目標】 森林の適正な維持管理、河川の水質浄化、正常な流量の確保などにより、保水機能などの維持、増進や人間が多様な自然や生物と共生できる環境づくりが図られるとともに、流域の豊かな自然資源を生かした産業の振興により、地域経済が活性化しています。</p>			
項 目	基準年度の状況	1999年度実績	2001年度の目標 (2010年度の目標)
上流と下流との連携による流域圏づくりの事例数	-	2	県内4つの一級河川 (県内すべての一級河川(7))
宮川の水質	(1995年度) 全国一級河川中 水質第2位	全国一級河川中 水質 第6位	日本一水質のよい 一級河川 (同上)
宮川流域の生活排水処理率	(1995年度) 9.1%	27.3%	約27% (44.7%)

1 平成11年度の取組

(1) 平成11年度の取組概要とその成果

(地域振興部)

宮川流域ルネッサンス事業の総合調整を行い、地域懇談会、ルネッサンス講座を開催するとともに、流量回復方策影響調査を実施した。また、情報紙の発行、ホームページの更新を行い、宮川流域ルネッサンス事業推進の組織財源の検討を行った。

建設省発表の水質ランキングは全国6位で前年度に比べ上昇した。

また、流域圏づくりの事例は木津川での取組みが始まり、事例数は2となっている。

(2) 平成11年度の取組に対する問題点

(地域振興部)

宮川流域ルネッサンス事業は、地域住民、市町村の理解、協働なくしては成し遂げられないものであるが、現時点では普及啓発活動が十分でなく、早期の財団、基金の設置は困難な状況である。

また、「宮川流域の流量を回復するための方策とその影響調査」として、宮川流域の現状の把握・整理を行い、地元の意向を配慮して種々の流量回復目標値を検討のうえ、その回復策についてメリット、デメリットの整理を行ったが、回復方策の方向性は平成12年度に検討することになった。

水質ランキングについては、全国順位は上がっているものの、BOD 平均値では数値的には0.1mg/l 上昇しており、引き続き取組みが必要である。

2 平成12年度の取組と成果見込み (地域振興部)

流域の伊勢に事務所を設置し、流域市町村、県、国関係機関を中心に設立した宮川流域ルネッサンス協議会を核に、より地域の実態に即した活動を行う。なお、普及啓発活動は、企画の段階から流域の住民にも参画してもらい、パンフレットの流域各戸配布を実施し、流域住民の参画を促す。事業の流域での認知度は飛躍的に上昇する見込み。

フィールドミュージアム計画については、庁内連絡会議を通じ、より積極的な取組を行うことにより、宮川流域ルネッサンス事業の一層の活性化につなげる。フィールドミュージアム計画の全流域化を図り、流域全体での取り組みとする。

また、流域圏づくりについては、生活創造圏づくりと連携をとって、すすめており、いくつかの河川で取り組みが始まりつつある。

3 平成13年度以降に向けての取組方向 (地域振興部)

引き続き、宮川流域ルネッサンス事業の総合調整を行う。基礎的な調査事業は平成12年度をもって概ね終了させる。

フィールドミュージアム計画をバージョンアップし、人と自然の共生をテーマに、全流域に展開する。合わせて、地域と一体となった取組を行い、水質ランキングの向上を図る。

また、流域圏づくりについては、引き続き、生活創造圏づくりと連携をとり、取組を進めていく。

(環境部)

平成11年度末の宮川流域における生活排水処理率は27.3%であり、平成13年度目標を達成したことから、生活排水処理率のさらなる向上を図るため、県と市町村が連携して施設整備に努める。